



## —進化する血管外科 ハイブリッド手術 切って行う手術と血管内手術の組み合わせで 治療困難を克服—

### 血管外科 医長 赤木 大輔

血管外科という科はあまり馴染みがない方もいらっしゃるかもしれませんが。頭の中と心臓以外のすべての血管（動脈／静脈）の病気を治療する科です。多くの病院では外科とひとくくりであったり、心臓外科の先生が心臓病と一緒に治療されていたりということもありますが、実はとても専門性の高い科で、全国的に徐々に広がってきています。当センターでは2010年から血管外科として独立して診療を行っています。この数年で新しいデバイス（治療器具）が出現し、急速に進歩しています。当センターでは専門医が新しいデバイスを全国で先駆けて使用できる状況にあり、最先端の診療を適切に進めています。

### 「血管外科の病気」

手足を含め、全身を診療しています。主な病気は以下のようなものがあります。

**大動脈瘤**：症状がないこともありますが、破れると生命にかかわります。お腹にどくどくとした脈を触れたら一度検査にお越しください。

**脚の動脈閉塞**：歩くとふくらはぎが痛くなる、足の指の傷がなかなか治らないという症状が代表的です。

**下肢静脈瘤**：足の血管がポコポコ浮かび上がっていたり、明け方に脚がつったりします。また、皮膚炎を起こしたりします。

**内臓動脈瘤**：お腹の大動脈以外の腎臓や肝臓に行く血管にも動脈瘤ができることがあります。これらもカテーテルとバイパス手術を駆使して手術治療しています。

**バスキュラーアクセス造設**：血液透析の患者さまの「内シャント」の造設・維持をしています。



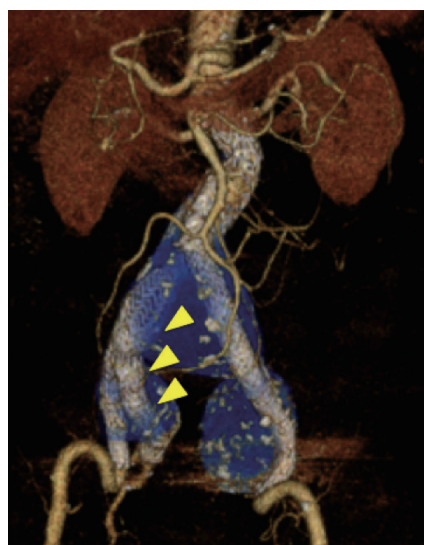
## 「進化している大動脈瘤に対するステントグラフト治療」

「切らないで治す大動脈瘤治療」としてステントグラフト治療が日本で認可されて10年余りになります。その間も新しいデバイスが発売され、どんどん進歩しています。大動脈瘤には胸部と腹部があり、それぞれ別々のデバイスがあります。例えば、腹部大動脈瘤用としては5種類のデバイスがあります。それぞれ見た目も違い、得意とする瘤の形は違っています。しかし、すべてのデバイスを特性に即して使いこなしている施設は決して多くありません。当センターではあらゆるデバイスを上手に使い分けて適切に診療しています。

また、ステントグラフト治療の際に骨盤内の血流を温存できるIBEと呼ばれるデバイスも昨年秋から発売されました。以前は骨盤内に血流を送る内腸骨動脈への分岐部にかかる瘤の場合は、内腸骨動脈を塞ぐ治療が必要でした。これにより、歩くとお尻が痛くなる臀筋跛行と呼ばれる症状が出たり、腸に行く血流が減ることによる虚血性腸炎を起こす危険があったりします。また、男性には性機能の低下を起こすこともあります。骨盤内血流温存によりこのような危険を低減できるため、適応のある方には積極的に使用しています。



大動脈瘤に対するステントグラフト治療：  
大動脈の末梢が狭くても使用できるステントグラフト（Endologix社より引用）



IBE（内腸骨動脈への分岐ステントグラフト：矢印）を用いたステントグラフト治療の実際

## 「脚の動脈閉塞の治療—新しいステントグラフト治療」

次頁のCT画像で示したように、こんなに太ももの血管が全長に詰まっていた患者さまもカテーテルでステントグラフト治療を行い、間欠性跛行症状はなくなりました。

ただし、脚の動脈のカテーテル治療には、治療した部位がまた狭くなる「再狭窄」が起こることがあります。再狭窄しないように、お薬を塗った風船（薬剤溶出性バルーン）での治療も行っています。

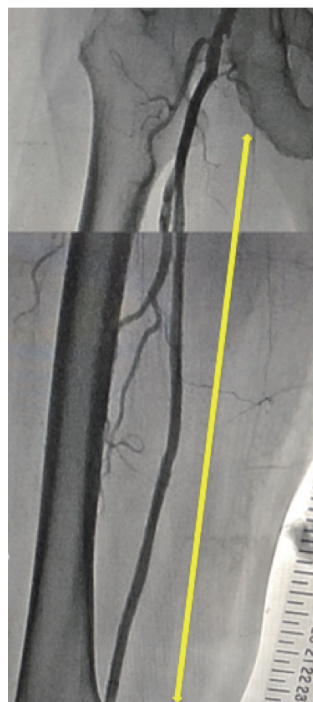
足に傷があってもなかなか治らない方には、確実な血行再建法である足先まで

のバイパス手術も積極的に行っています。

脚を直して、元気に歩いて健康長寿しましょう！



術前のCT：浅大腿動脈閉塞（矢印部分）を認めます



カテーテル治療後の血管造影：術前閉塞していた浅大腿動脈は開通し、ステントグラフトが挿入（矢印部分）されています

## 「ハイブリッド手術室」

私たち血管外科の最近の大きな治療の進歩として、新しい血管撮影装置を完備した手術室（ハイブリッド手術室）の存在があります。新しい治療として進歩が著しいのは血管内治療と言われるいわゆるカテーテルを使用した治療です。最近ではカテーテル治療とバイパス手術の得意分野を生かし、これらを行って行う「ハイブリッド手術」と呼ばれる治療が広がっています。当センター血管外科では週3回の手術日にはすべてハイブリッド手術室を使用しています。

## 「血管超音波（エコー）検査、CT検査」

今年3月の当センターの広報誌「糸でんわ」に新しいCT装置の説明がありますが、新しい機械を駆使して体に優しい適切で迅速な検査を行い診断を行っています。

また、血管外科領域では体の表面からのエコー（超音波）検査で多くの病気の進行度が診断できます。当センターでは積極的にエコー検査を行って迅速に診断し、治療に当たっております。

## 「赴任しました」

東京大学より今年の4月に赴任しました血管外科医長の赤木 大輔です。

赴任後2ヶ月あまりとなりますが、適切な治療適応に則り、積極的に治療を進めております。すでに手術件数は前年同時期比1.5倍と増加しております。これも様々な治療手段を適切に組み合わせることで一見困難な症例にも適切に低侵襲で治療を進めているためと自負しています。迅速な対応を心がけております。何かありましたらお気軽にご相談ください。



# HCV 感染症の治療

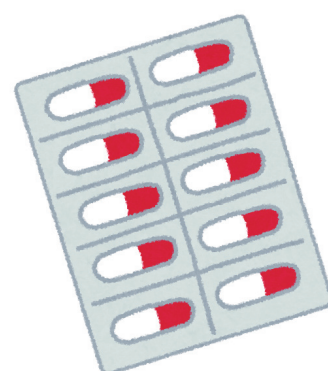
消化器内科 部長 上垣 佐登子

## C 型肝炎の治療法はここ数年で大きく変わりました。

これまで、C型肝炎ウィルスの治療はインターフェロン（IFN）投与を中心として行われてきました。単剤治療から始まり、その後抗ウイルス薬との併用期間を経て、2014年にDirect-acting-antiviral(DAA、直接作用型抗ウイルス薬)を併用したIFNを使用しない治療法、IFNフリー療法が初めて開始となりました。いくつか変わった点を比べてみます。

### ①投与方法

IFN治療は皮下注射か静脈注射の薬ですので、毎回注射治療が必要でした。IFNフリー療法で使用されている抗ウイルス薬はいずれも内服薬です。



### ②期間

IFN治療は半年～1年など長期に継続が必要でした。IFNフリー療法は、開始時の薬剤は半年の内服期間が必要でしたが、DAAも新しいものが次々と登場し、現在は3ヵ月の内服期間が中心で、2017年には患者さまの状況によっては2ヵ月で治療終了できるDAAも使用可能となりました。

### ③治療効果

日本には、約150万人のC型肝炎の感染患者がおります。そのうち約70%がジェノタイプ1型（セロタイプでグループ1）と言われるIFNが効きにくいタイプとされています。残りの約30%がジェノタイプ2型（セロタイプでグループ2）で、こちらはIFNの効果が比較的良好でした。

IFN治療での効果は当初、約20～30%程度でした。IFNと抗ウイルス薬との併用療法で、1剤の抗ウイルス薬との併用でジェノタイプ2型は約80%、ジェノタイプ1型では約50%でした。その後抗ウイルス薬を2剤併用し効果はジェノタイプ1型で約80%前後まであがりましたが、副作用が強く治療を継続することが難しい場合もありました。一方で、IFNフリー療法は、ウィルスの薬剤耐性がある場合は、薬剤によっては効果が出ない場合もありますが、当初から約90%程度、現在主流となっている治療法では約95%の効果となっています。



#### ④副作用

IFN 治療の副作用は、血球減少、インフルエンザ様症状と言われる発熱や関節痛、食欲不振、脱毛、うつ傾向などがあります。また、IFN 療法と併用される抗ウイルス薬にも貧血を来す作用が強いものもありました。対して、IFN フリー療法は、ほとんどの場合は大きな副作用なく治療が継続できるものとなりました。とは言っても、肝機能障害、消化器症状、皮膚や全身症状などがみられる場合もあります。また循環器疾患、腎臓疾患など併存疾患によって治療薬の選択が必要でしたが、現在は薬剤の進歩によって併存疾患によらず使用できる場合がほとんどとなりました。

慢性 C 型肝炎 IFN フリー療法は、内服薬で治療期間も短く副作用も少なく治療できて、効果も期待できるものに変化してきました。

### 当院での治療までの流れ

一般的に検診や他の疾患で指摘される HCV の検査は HCV 抗体を測定していますので、当科受診後まずは HCV のウィルスの量やタイプの検査を含めた肝機能の採血と腹部超音波検査を中心とした肝臓の画像検査で、HCV 感染症の状態を評価します。HCV 感染では、慢性肝炎から肝硬変へと病状は進んでいきます。肝臓の状態が肝硬変となり予備能の低下がみられる場合には、この治療ができない場合もあります。

治療の対象と判断されれば、治療費用が高価なため、東京都などの自治体の助成金制度の申請をします。申請期間が現在は約 2 ヶ月程度かかります。そしていよいよ治療の開始となります。当センターでは高齢の方も多く、併存疾患も様々で、開始当初は経過をみるための入院もおすすめさせて頂いております。治療などに関してご質問がありましたら、当科外来にご連絡ください。



## 患者さまの声

衛生管理や患者に対する対応など、とても配慮が行き届いていると感じました。特に浴室での対応がとても良かったです。全ての方々が素晴らしい対応でした。

歯科衛生士の方の優しいアドバイスのおかげで、2年以上も歯を抜くことなく食事も楽しんで病気も安定しております。技術だけではなく人の関わりもとても力になります。病院で働いている方々に感謝します。

質問に一つ一つ労をいとわず向き合ってください、ありがとうございました。おかげで不安を小さくして帰ることができます。

昨年他病院にて大腸カメラ検査を実施しましたが不明なところがありました。今回、早めに検査を行い、

病気が見つかりましたがステージ1で済むことができ大変感謝しています。看護師のみなさんも献身的に支えてくださり、ありがたく重ねて感謝の次第です。

患者が精神科受診の際、他科の検査で疲労し、機嫌が悪く、大声を発するなど不安定な状況でした。そのような状況であるにもかかわらず、看護師に相談をしたら大変親切に対応して下さいました。気持ちが軽くなりました。

突発性高血圧のため、救急外来を受診しましたが、看護師の対応がとてもあたたかく、心から信頼することができました。夜間勤務の忙しい中、本当にホスピタリティにあふれる対応で、病気の何%かは看護師のおかげで軽くなったのではと思っています。

## おれんじの会

がん相談支援センターは、がん患者さまが日々抱える不安や心配事を少しでも軽減できるようにお手伝いしています。

「おれんじの会」は、がん相談支援センター主催で、患者さま・ご家族が必要な情報を収集したり、交流ができる場になっています。

お気軽にご参加ください。

### 平成30年7月27日(金) 14時～15時

**会場** 2階 非薬物療法室

**集合場所** 2階 23番ブロック

**講演内容**

①「がん治療にかかわるお金のあれこれ」  
講師：医療ソーシャルワーカー 中馬 かつら

②患者交流茶話会

**申し込み窓口** がん相談支援センター 1階⑧番 直通番号 03-3964-5946

**締め切り** 7月20日(金)

**年間で行う場合のスケジュール**

平成30年7月27日(金) 14時～15時

平成30年10月26日(金) 14時～15時

平成31年2月22日(金) 14時～15時

講演内容未定

講演内容未定



第151回老年学・老年医学公開講座

ご存知ですか？

「健康長寿新ガイドライン」

ポイントを押さえて！あなたも健康長寿  手話通訳あり

**会場** 文京シビックホール 大ホール 東京都文京区春日1-16-21

申込不要  
入場無料

平成30年

9月6日(木)

13時15分から16時10分まで  
(開場 12時15分)

「糸でんわ」編集事務局 03-3964-1141 (内線1240 広報普及係)